柏市立 名戸ヶ谷小学校

SCHOOL DATA

〒277-0032 柏市名戸ヶ谷927−2
TEL.04-7163-0540 FAX.04-7166-1909
■児童数／322人 ■教職員数／18人 ■周辺環境／住宅地、水田 （平成20年5月1日現在）

田植え風景

ビオトープの概要

●場所／学校敷地外
　　学校から徒歩5分
●面積／4,400㎡
●設置者／柏市・名戸ヶ谷ビオトープを育てる会
●設置した年／2002年
●直近の改修年／2007年
●主な管理者／柏市・名戸ヶ谷ビオトープを育てる会

生息している生物

植物:ガマ、ヒメガマ、コガマ、マコモ、ヨシ、オギ、ウキヤガラ、ホタルイ、セリ、ミゾハギ等
動物:アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオヨシキリ、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、モツゴ、ギンブナ、ヨシノボリ、ドジョウ、オニヤンマ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、オオアオイトトンボ等

今後生息させたい生物

絶滅危惧種のニホンアカガエルや絶滅の危機に瀕している生き物や植物等の保護

＜コンセプト＞

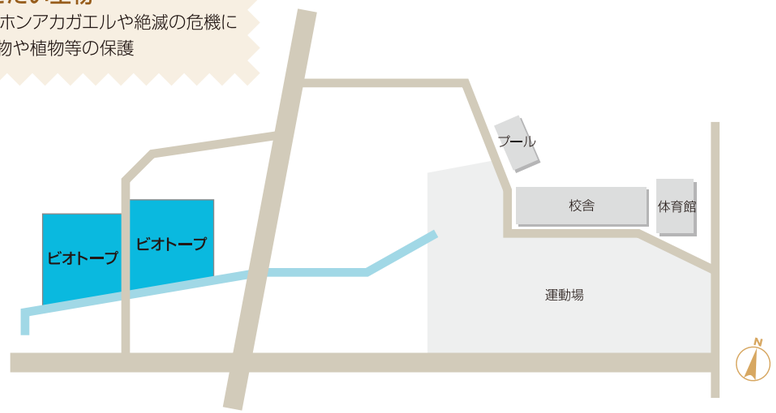
名戸ヶ谷小学校の周りの名戸ヶ谷湧水周辺地域は、谷津の面影を残し、かつては水田耕作が行われていた。近年、この地域の都市化が進み、残されているのは、湧水付近のみとなってしまった。そこで、柏市では、水田の一部を所有するとともに、周辺地域の地権者の協力を得て湿地のビオトープをつくることになった。

平成14年3月、環境省から補助金を得て、ビオトープを造成した。更に、平成15年1月学識経験者、地元町会、地域の学校及び一般市民の意見により、ビオトープを管理、運営する「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」が発足された。以後、柏市の協力を得て、管理、運営されている。

名戸ヶ谷ビオトープの原則

○湿地の自然として多様な動植物が生息できる場を育成する。
○生息、生育する動植物は、本来この地域にあるものとする。
○他の地域の生き物、外来種、栽培種は導入しない。

ビオトープは多様な生き物の生活空間であると共に、地域の人たちが身近な自然に触れて、生き物との共生を考え、名戸ヶ谷小をはじめ地域の学校の環境教育の場になることを期待している。



市の広報誌

ビオトープの活用方法

1年生と2年生は生活科、3年生から6年生は、理科や総合的な学習の時間で、ビオトープを育てる会の協力を得て、観察等を行う。特に5年生は、ビオトープを育てる会の全面協力で、ビオトープ内の水田での稲作に取り組んでいる。5月の田植え、6月の雑草とり、8月のかかし作り、9月の稲刈り、脱穀、もみすり、精米、11月のふれあいの集いでのもちつき（収穫祭）を行っている。

また、2月には、名戸ヶ谷ビオトープで収穫された米やもち米を給食に出し、5年生の児童と名戸ヶ谷ビオトープの方たちとの交流をもつ。名戸ヶ谷ビオトープを育てる会では、学校や地域に呼びかけ、季節ごとに観察会を企画している。

ビオトープの効果

■児童への効果

身近にある生き物や植物を観察することで、身近な自然に興味を持ち、更に自然環境の保全意識を高める。

稲作を体験することで、米作りの苦労がわかり、食べ物の大切さやありがたさを再認識する。

■教職員への効果

生活科、理科や総合的な学習に時間において、地域の身近な自然として環境教育に活かすことができる。

■保護者、地域住民への効果

観察会や稲作での協力により、学校への理解を更に深められる。

保護者、地域との連携

保護者

観察会や稲作での手伝いをお願いしている。

自治会、町会

ビオトープのある名戸ヶ谷町会や近隣の亀甲台町会の理解のもと、普段のビオトープの活動を行っている。

NPO

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の全面的な協力で、観察会や稲作を行っている。

その他

柏市役所環境保全課の協力を得ている。

整備・活用・管理等の課題

これまでは、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会と柏市が中心となって整備や管理を行ってきたが、今後は委員会活動やクラブ活動などで、名戸ヶ谷小学校の児童も更に積極的に関わっていく必要がある。

また、名戸ヶ谷ビオトープを活用しての環境教育プログラムの充実を更に図っていく必要がある。

今後の展望

今後も、この貴重な「名戸ヶ谷ビオトープ」を維持し、自然観察や稲作等、名戸ヶ谷小学校の環境学習の場として、更に充実していきたい。

また、地域住民の憩いの場となるよう、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会、町会や保護者と連携をとりながら、整備、管理をしていきたい。